

平成 30 年 10 月 11 日

平成 30 年 9 月度市況

東京洋紙同業会（紙青会作成）

<印刷用紙 A>

平判は塾テキスト関連の動きが見られたが、全体的に低調で前年を下回った。

（前年比 92.0%）

巻取は生損保、金融関連の動きも悪く、目立った大口物件も減少して前年を大幅に下回った。

（前年比 77.5%）

再生紙：平判の小口物件の案件は大幅に減少したものの、巻取は官公庁関連の大口物件があり前年を上回ったが、再生紙全体では下回った。

（前年比 再生上質平判 79.2% 再生上質巻取 106.6% 再生上質計 89.4%）

（前年比 印刷用紙 A 88.7%）

<A2 コート>

平判は金融、生損保関連、カレンダー等で動きがあったものの全体的に動きが悪く、前年を下回った。

巻取は目論見書、企業カタログ、生損保関係で動きがあったものの新規案件が少なく、特にグロス紙が落ち込み前年を下回った。

（前年比 平判 91.8% 巻取 94.3% 全体 92.4%）

<A3 コート>

学習塾、量販店で動きがあったもののチラシ案件等一部微塗工へのシフトもあり、平判の減少幅が大きく巻取を含めても前年を下回った。

（前年比 平判 82.9% 巻取 95.1% 全体 90.4%）

<ノーカーボン紙>

月前半は多少の動きは見られたが、後半にかけ生損保、官庁関連共に決算に向けた在庫調整もあり、低調に推移し前年を下回った。

（前年比 平判 93.6% 巻取 87.2%）

<上質フォーム>

新規案件の動きも無く、官庁系、金融関連の動きも弱く、低調に推移し前年を下回った。

（前年比 90.6%）

<包装用紙>

特殊両更は封筒のカラー化による印刷用紙への移行と WEB 化の影響等により前年を下回った。

(前年比 80.9%)

軽包装は製本会社向けの雑包装用途や手提げ袋用途が振るわず前年を下回った。

(前年比 84.0%)

片艶晒は専門店手提げ用途、駅中での手提げ袋用途がインバウンド需要により引き続き好調で前年を上回った。

(前年比 101.8%)

両更晒は高額商品向けの手提げ用途の動きはあったが、全体を押し上げるには至らず前年を下回った。

(前年比 94.3%)

純白ロールはギフト向けと生花店の彼岸需要はあったが、省包装化、軟包装化の影響で前年を下回った。

(前年比 89.8%)

包装紙全体でも、87.2%と前年を大きく下回った。

<板紙>

化粧品、医薬関係は底堅く堅調であったが特殊板紙はタバコ等の POP が低調で振るわず、台風など天候不順の影響で行楽地等の人出も減り土産品の動きが鈍く、全体的には昨年を下回った。

(前年比 97.4%)